

11月1日 おかやま教育の日

この「おかやま教育の日」は、県民の教育に対する理解と関心を高め、教育振興の気運を盛り上げていくために、全国に先駆け平成13年6月に県の条例で定めたものです。「みんなで学んで かがやく 未来」という標語も定められています。これは制定のために事前に公募されたもので、応募総数847件の中から選ばれたものでした。

皆さんもご推測の通り、「教育県おかやま」と自負していた時代もありながら、最近の岡山における教育、また児童生徒の学力低下や不登校、校内暴力の増加は由々しき問題であり、県をあげての取り組みとして「おかやま教育の日」が制定されたに違いありません。

今年には「おかやまの子どもの生活信条」と「子どもの健全育成に向けた大人の生活心得」が提案されています。就学前幼児向け、小学生向け、中高校生向け、そして大人向けの心得もあります。

早く起き 子供のために 朝ごはん
気持ちいい 朝のあいさつ 大人から
教えよう やっていいこと 悪いこと
ありがとう ごめんなさいを 大切に
手を止めて 顔見て聴こう 子の話
心から しっかり褒めて きちんと叱る
どの子にも 地域みんなで 声かけを
参加して 深める絆 地域の輪

これらが基本になって、子供向けの心得も作られているようです。子供を育てるには、まず大人が手本を示すことが始まりですね。規則正しい生活を推進するために「ぱっちり！モグモグ」生活リズム向上キャンペーンもあわせて行なわれており、マスコットも設定されています。早寝早起きと朝ごはんの摂取を推進するものです。

県のホームページには「おかやま教育の日」にあたり、公共施設や学校で取り込まれる様々な事業が掲載されています。地域とのつながりを深める行事もたくさんあります。子供は親だけでなく地域全体で見守り育てるということなのでしょう。中に高梁高校で所蔵品（山田方谷・板倉勝静の書など）を一般公開する催しがありますが、非常に興味を覚えます。明日14時～17時の開催です。先日清水比庵を紹介した際、高梁の文化的な素地はやはり、こういうところにあるのだなと感心します。

県民の日を定めているところは、少なくありません。それに準じるものとして全国的には「おかやま教育の日」が紹介されています。同様に教育の日を制定しているところに北海道があります。

子供の健全な育成のためのおとなの標語までであるとは知りませんでした。おっちゃんのかどもたちは、すでに成人ですが、これからは地域の大人として、この心得を守りたいと思います。せつかくの「おかやま教育の日」、もっと県民全体に広め、みんなで取り組むことが出来れば、よいなあと思います。何かと、さめたところの多い岡山県民ですが、かつての「教育県」の復活のために皆で一丸となって取り組むことも必要でしょう。

11月2日 1940年国民服令が出されました。

戦時中の、物質統制のもと男子の衣服を簡素で合理的にするために考案されました。デザインは被服協会によるものです。はじめは強制するものではなく、おしゃれな人が流行の先端を着ているという感じだったそうで、ちょっと驚きです。

戦局が悪化するにつれ、この服は広く着られるようになりました。他の服が手に入らなくなったことと、国に対する忠誠心を表す服となっていったからでしょう。こうなってくると、おしゃれな人が流行の先端で着ていた頃とは全然違った意味を持つてくるのですね。

この勅令によって今まで和服を着ていた人も洋装化していき、明治大正時代からの服装改善運動に一応の終結を迎えたともいえるのです。

全く忌まわしい時代の遺物でしかないのですが、初期のデザイン画をみると、おしゃれな感じがしてきます。最初に流行の先端と言われたのも分かる気がします。

勅令の本文を読めば、この服は背広やその他の平服に代わるものであり、国民服儀礼章をつければ礼装にもなると決められています。燕尾服やフロックコート、モーニングにも相当すると書かれているので、言い方を替えれば、もう燕尾服やらモーニングなど着る必要がないと言っているのですね。

また、ズボン（敵国語？）という表現を使わず「袴」と書かれています。国民服の下に着る「中衣」の襟は「日本襟」と表現されています。日本襟とは、着物のような打ち合わせの襟を意味しているようです。また共布の帽子が「烏帽子型」とあります。いまさら烏帽子だとは……

ところで、この国民服は、かつて中国で着られていた人民服を連想しませんか？

この人民服は孫文が日本の学生服や軍服を気に入ったことから、日本人の佐々木到一が彼のためにデザインしたものだそうです。大体、大正末期ころではないかと思われます。以降、中国の上層部から流行していきました。

今、北朝鮮の金正恩が着ているのも、人民服の流れによるものです。彼は「革命の同志」の象徴として着ているようですが、元を紐せば日本人の考案によるもののようです。

国民服儀礼章は、打ち紐を飾り結びにした飾緒に近いもので、胸のボタンと第二ボタンにかけるようになっています。ブローチのようで、ちょっとおしゃれな感じもします。みんなが着るように、いろいろ考えたのだろうと思えます。クールビズが、ただだらしなないだけに感じないよう、誰か流行の先端のデザインを考えないでしようかね。

11月3日 ハンカチーフの日

1983年に日本ハンカチーフ連合会によって決められました。

由来は、フランス革命の時断頭台に散った王妃、マリーアントワネットが、国内にあるハンカチーフの形を正方形に統一する布告を1785年夫のルイ16世に出させたことから、彼女の誕生日（11月2日）に近い、祝日の3日としました。

ハンカチーフという言葉は、カチーフ（フランス語の『Couvrechief』）、これは頭に被る物という意味です。まだ帽子がない頃、女性達は布で頭や肩などを覆っていました。そして帽子が出回るようになると今度は、それを首に巻いたり、あるいは手などに持ったりしました。それが手に持つカチーフと言う意味で（英語の『handkerchief』）ハンカチーフになったそうです。

ハンカチーフは、長方形や丸いもの三角形のものもあったそうです。戦争に赴く恋人にイニシャルを刺繍して渡し愛の証にしたとか、親から子供に受け継がれるとか当時はかなり高価なものだったのです。

ファッションリーダーとしても知られるマリーアントワネットが、どうして布告を出すほどに正方形にこだわったのか分かりませんが、そのぐらいおしゃれに関係のあったものようです。マリーアントワネットのハンカチーフなら、シルクで刺繍のもの、レース編みのもの・・・さぞかし素敵なものに違いありませんね。

ネックチーフ、ポケットチーフなども、カチーフからの発展系のようにです。どれも、おしゃれのポイントになっています。

手を拭いたり、汗を拭いたりする実用的なものといえば、ハンカチーフというよりハンカチ。日ハムの斉藤投手が、甲子園で投球の合間にハンカチで汗を拭いていたのが、印象的で「ハンカチ王子」なんて言われましたね。

ところで、最近はハンカチを持ち歩かなくても困らないことが増えてきました。ホテルやお店はもちろん、公衆トイレでさえ水分を吹き飛ばしてくれる器具が備え付けられているし、食堂ではおしぼりを出してくれます。

おっちゃんが子供の頃には、学校で「衛生検査」なるものがあったて、ちり紙、ハンカチを持っているか、爪はきれいに切っているか、顔や服装は汚れていないか、などを調べていました。ハンカチを忘れていたら、バッチリ×が付くんです。ハンカチを持ち歩かないと、ちょっと恥ずかしかったもんです。

そうそう、休み時間には、ハンカチでねずみなんか作って遊んでいましたね！

日本では、手ぬぐいが使われていましたが、手や汗を拭いたり、湯屋で使ったり、防寒のために首や頭を覆ったり、また祭礼の時に用いたりしました。手ぬぐいをねじって鉢巻にしたりしますね。

そうそう、時代劇では切れた鼻緒を直すために、手ぬぐいを歯で裂いているなんてシーンを見たことがあります。困っている娘さんの足元に跪く若者のシーンは、ドキッとする恋の始まりです。

ハンカチも手ぬぐいも使い道はいろいろ、しかもおしゃれ！見直しますね。

11月4日 190年 李方子が生まれました。

皇族の梨本宮家に生まれ、1920年大韓帝国の皇太子李垠の妃になりました。当時の朝鮮半島は、1897年李氏朝鮮から大韓帝国に国号を改めています。1910年より日韓併合で大日本帝国になっていました。この結婚は「内鮮一体」「日鮮融和」というスローガンの象徴になった政略結婚でした。

「内鮮一体」とは、内地（日本本土）と朝鮮を差別せず一体とするという事でした。

敗戦後、李方子は王公族の身分も日本国籍も喪失して一介の在日韓国人となり苦勞もたくさんありました。しかし、彼女の立派なところは1963年韓国に帰化し、韓国人として生きながら、障害児教育に取り組んだことでした。当時の韓国では、障害児教育はほとんど進んでいなかったようです。

自分で作った七宝焼や書や絵画を販売したり、李氏朝鮮の宮中衣装を持って世界各国で王朝衣装ショーを開催するなどして資金を集め、知的障害児施設「明暉園」と精神薄弱児のための「慈恵学校」を創設しました。李方子作の焼き物や七宝焼きは今でもオークションで多数見られます。そのような努力が認められ「韓国障害児の母」として多くの韓国の人から慕われたそうです。また日本人妻たちの集まりである在韓日本人婦人会「芙蓉会」の初代名誉会長も勤めました。

方子は1989年に亡くなりましたが、葬儀は韓国の準国葬として取り扱われ、葬列は1000人にも及び、多くの韓国の人に見送られました。

明暉園はソウルの南、京畿道安山市常緑区四洞に今でも存在します。しかし、方子を顕彰するものは、何も残っていないのが現状で、特に日本ではほとんど知られていません。2006年にフジテレビで放映された「虹を架ける王妃」を、覚えておられる方はおられるかもしれません。菅野美穂はけなげな方子を好演しました。

日本人にとって李方子の生涯は心痛むものです。時代に翻弄された女性ではありましたが、日韓の架け橋になるために韓国人として生きる決意を貫き、福祉活動に身を捧げた方子はまさに尊敬に値しますし日本人の誉です。

11月5日

1922年 ハワード・カーターがツタンカーメン王墓の封印を解き発掘を開始しました。

ツタンカーメンの呪いは、子供の頃、夢中になったものです。結局、そんな呪いと言われるような事実は何もなかったという結論ですが、今でも「ツタンカーメン」という神秘的な響きとともに当時を懐かしく思い出すのです。

ハワード・カーターは1916年からカーナヴォン卿の援助でエジプトの「王家の谷」の発掘を開始し、援助の契約が切れる1922年遂にツタンカーメン王の墓を発見します。この墓は一部の宝石を除き、副葬品のほとんどが完全な形で出土しました。

しかし、スポンサーであるカーナヴォン卿が墓の公開直後に急死したり、発掘に携わった何人かの人が不遇の死を遂げたことから、ツタンカーメンの呪いと言われるようになりました。

呪いではなく、墓には盗掘を防ぐための特別なガスが充満していたとか、特殊なカビが生えていたとか・・・そういう話も真しやかに言われました。

ハワード・カーターは、高等教育を受けていませんでしたが、巧みな模写技術を持っており遺跡の発掘現場でスケッチの担当としてエジプトに赴きました。考古学に並外れた情熱を持ちエジプトの考古局首席監督官も務めています。ツタンカーメンの呪いがセンセーショナルに世間で言われるのとは裏腹に、ハワードはその後16年も平穩に長生きしています。

ツタンカーメンの黄金のマスクを始め多くの副葬品は、恐らく当時の人々の度肝を抜いたのでしょう。ですからマスコミも殊更に人々の好奇心をくすぐるように、呪いと称して喧伝したに違いありません。

おっちゃんも、本に載っていた黄金のマスクには惹きつけられましたね。美しい～。しかも当時は呪いを信じていましたから「写真を見るだけで呪われるんじゃないか・・・」と、じいっと見るのは、ためらったぐらいです。怖いのにひきつけられて・・・。

本物の黄金のマスク、じいっと見てみたいなあ。

11月6日 1911年 谷豊が生まれました。

谷豊はマレー半島で活動した盗賊であり、日本陸軍の諜報員として活動した人物です。通称を『ハリマオ・マラユ』と言い、ハリマオといえ、お分かりの方もおられるかもしれません。

谷豊は福岡県で生まれましたが、1歳のときに両親に連れられてマレーシアのクアラトレンガヌに移住しました。父親は理髪店を営み、豊と3人の妹はマレーの人やマレー文化に馴染んで成長しました。イスラム教に帰依しています。

20歳の時には日本に帰国し、徴兵検査では不合格になっていますが、日本人として祖国に役に立ちたい気持ちは強かったようです。

満州事変が始まった時、マレーでは反日の華僑が暴動を起こし、妹が殺される事件がおきました。それをきっかけに豊はマレーに戻り、マレー人の友だちと徒党を組んで華僑をターゲットにした盗賊になりました。当時マレーを支配していたイギリスや華僑からは相当恐れられていたようですが、マレーの人々からは義賊と思われており、彼らを訴える人はいなかったと言います。この盗賊団は3000人にも及び、ジャングルを根城に活動を続けました。

日本陸軍は、マレー半島攻略のための諜報員を探しており、その目に留まったのが谷豊でした。ジャングルに潜んでいると言われた盗賊の頭を探すことを命じられたのは神本利男で、無銭飲食で投獄されていた谷豊を探し出し、諜報員になるよう説得したようです。無銭飲食で投獄されていたと言うのは、ちょっと笑えます

が・・・。

谷豊は「F機関」とともに諜報活動に従事しましたが、マラリアに罹患し、本来ならキニーネで治るところ白人の作った薬を飲むことを拒絶し31歳という若さで亡くなりました。結局、日本陸軍の諜報員としては2ヶ月の活動でしたが、マレー半島攻略には大きな功績があったようです。

豊の遺骨は、妹が殺された事件の後日本に帰国して福岡に暮っていた家族の元に送られました。そのことが新聞で大々的に報道され、マレーで活躍した英雄としての映画が作られました。このイメージがその後「快傑ハリマオ」としてTVドラマや漫画になりました。ハリマオとはマレー語で虎を意味します。

「快傑ハリマオは1960年4月5日から1961年6月27日まで放映されています。抑圧される東南アジアの人々を解放すべく、正義の使者ハリマオが活躍するお話で、その一部は日本で初めてカラーで製作されています。残念ながらおっちゃんには、物心付く前のドラマです。

先日の李方子も然りなのですが、この谷豊も日本人でありながら現地の暮しに馴染み、現地人に慕われた人でした。

11月7日 1936年 日本の国会議事堂が落成しました。

国会議事堂は1920年に地鎮祭が行なわれてより着工し、17年の歳月をかけて建設されました。

そもそも国会議事堂の建設構想は、1881年に国会開設の詔が発せられ1890年には国会が開催されることが決まった頃からあり、場所も今の永田町一丁目と決まっていた。しかし工事期間や予算などの都合により、第一次、第二次、第三次と仮の議事堂を経て、やっと本議事堂が竣工したのでした。

国会議事堂を見学したことのある方なら、この日本を代表する建物が、いかに荘厳で歴史を感じさせるものか、ご存知だろうと思います。外装用として花こう岩3種類、装飾用として大理石が33種類、蛇紋岩2種類、珊瑚石灰岩1種類、橄欖岩1種類、日華石1種類の石材が全国から集められ使用されています。よく見れば、大理石の中に化石があったりします。

また全てを純国産での建設を目指しましたが、当時の日本の技術ではどうしても作れなかったものが3つだけあり、それが本会議場の天井のステンドグラス（イギリス製）、各部屋のドアの取っ手（アメリカ製）、廊下に設けられた郵便差し入れ口（アメリカ製）だったそうです。

国会議事堂は、向かって左が衆議院、右が参議院になっています。国会中継を見て分かる通り、議長席を要に扇型に議員席が並んでいます。この議長席の後ろをみれば、衆議院場か参議院場か分かります。上方に御座所が作られているのが衆議院で、玉座があるのが参議院です。参議院議場で、国会の開会時には、天皇のお言葉を賜われます。実際には、衆議院の御座所は使われたことはないそうです。

中央塔玄関は天皇、外国貴賓以外は誰も入ることはできませんが、国会議員になった初登院の時だけ入る事が

許されます。

天皇が国会議事堂にお越しの時に使うのが、3階奥の御休所で、入り口の床には3×2.2センチ角にカットされた14色の大理石がモザイク状に敷き詰められ、室内は総檜（そうひのき）造の本漆塗り、寄せ木貼りの床の上には絹緞通（きぬだんつう）のじゅうたん、紅葉石の暖炉の上には金の置き時計がおいてあります。建築費の10分の1は、この部屋のために使われたとも言われています。しかし滞在は10時45分から11時まで、毎回きっちり15分間だけだそうです。

議事堂は、地下の通路で議員会館と繋がっていますが、その途中にある売店では、いろいろ面白いお土産を売っています。歴代総理のイラスト入り湯のみや扇子、議事堂まんじゅうとか、その時々総理を駄洒落にしたいろいろなお菓子やグッズがあります。

どこの国でも国会議事堂は、最高の材料を用いて最高の技術で最高の芸術品として建設しているでしょう。日本のもそうです。みんなに選ばれて、この議事堂に足を踏み入れたなら、きっと責任の重さに身の引き締まる思いがするに違いありません。全ての議員が真摯に国会に臨んで欲しいものです。

参議院側なら一般の見学も常時行なわれていますが、衆議院側は議員の紹介か、もしくは特別なツアーでなければ入ることができません。粹を集めた国会議事堂、参議院だけでも一度、見学してみる価値はあります。

11月8日 1956年日本初の南極観測隊が南極に向けて東京港を出航しました。

このときの観測隊については、1983年公開映画「南極物語」や昨年TV放映された南極大陸、またタロジロの物語などで、よく知られています。

しかし、このときの南極観測船「宗谷」は、元はソビエト連邦から耐氷型貨物船として1936年に発注されたものだったことは、あまり知られていません。

太平洋戦争前の情勢で結局ソビエトに引き渡されることなく「地領丸」という名前で日本の民間会社の貨物船として就航しました。当時としては珍しい最新鋭のイギリス製の水深探知機が装備されていましたから、海軍が食指を動かしていたと言います。

1939年には、海軍特務艦となり「宗谷」と改名しています。戦中は測量・輸送に従事しましたが、奇跡的に魚雷や空襲を回避して終戦をむかえました。また戦後は在外邦人の引き揚げのために運行し、延べ1万9千人を運んでいます。

1949年には、海上保安庁の灯台補給船になりました。日本各地の灯台に家族で暮らす人々のために、生活物資をはじめ、さまざまな物資を運んでいました。子供たちに、おもちゃや絵本を運ぶこともあり、海のサンタクロースと言われました。

1957年に大ヒットした映画「喜びも悲しみも幾年月」の1シーンにも、撮影当時実際に灯台補給船として活躍

していた「宗谷」が登場しています。

建造されてから20年も経った、すでに老朽船とも言える宗谷に思いよらぬ任務が下されます。国際地球観測年に伴い南極観測を行うことが決まって、その観測船として宗谷に白羽の矢が立ちました。他にも候補に挙がった船はありましたが、改造予算の問題や耐氷構造、船運の強さから、宗谷に決まったそうです。

老朽船を南極の厳しい条件に耐えられるように改造するのは大変なことだったようです。NHKの「プロジェクトX・宗谷発進」でも、また南極大陸のドラマの中でも感動的に描かれていました。かつて高い技術力を誇った日本海軍の技師の集団が、短期間に膨大な量の図面製作を見事にこなし、多くの作業員の並々ならぬ熱意によって改造がなされました。

日本中の期待と希望を負って、バンザイをする大群衆に見送られて、宗谷は南極に向け出港したのです。1962年、後継の「ふじ」に譲るまで1次隊から6次隊までの輸送を務めました。その後、海上保安庁の巡視船に戻り、1978年に退役するまで42年間にわたる長い間、活躍したのです。

2008年に退役した南極観測船の「初代しらせ」を見学したことがあります。

大切な任務を背負って20年以上航海し多くの人々の希望や声援を一心に受けた船ですから鉄の塊なのに、不思議なオーラを感じました。おそらく宗谷は、それ以上ではないかと思います。

船にも強運と言われるものがあることも、不思議な気がします。タイタニック号や戦艦大和のように不運な船もあれば宗谷のような船もあるのですね。人の一生と重なって見えます。

11月9日 1876年 野口英世 が生まれました。

日本人の好きな典型的な偉人というのは、彼のような人のことでしょうか。非常に貧しい生まれで、子供の時のやけどのために左手が不自由であったにもかかわらず、人並みはずれた努力によって学業を修め、世界的な名声を手に入れました。子供の時に必ず読む「伝記」に、野口英世は入っているように思います。

集中力は桁外れだったそうで、英語・ドイツ語・フランス語を学び、また中国語の会話は現地に滞在しているわずかな間にマスターしたそうです。また「寝る時間は3時間」を実践し、アメリカで研究していた時には「人間発電機」と言われました。同僚たちからは一体どこから、そのような力が湧いてくるのかと不思議がられたそうです。

医学だけでなく、歌や絵や書にも秀でていたと言います。親孝行だったとも伝えられ、また英世に惜しみなく愛情を注いだ母親を大切にされた多くの逸話も残っています。

野口のことは日本だけでなく外国にも知られていて、エクアドルには野口の名前がついた通りが、ペルーには彼の名前のついた学校があります。現地の人々が彼の功績を後世に伝えたいと考えたからです。

玉に傷といえば、お金にだらしく、浪費癖があったようです。しかし、憎めない人柄で借金は上手だったようです。

野口英世は子供の頃「清作」という名前でしたが、途中で改名しています。改名した理由は、坪内逍遙の『当世書生気質』という小説の主人公が「野々口精作」という名前だったことです。その主人公は、放蕩で自堕落な医学生だったのです。名前も経歴もそっくりで、少々遊び癖があった野口は名前を改め心がけも変えたいと思ったのでしょう。

野口の研究の中には今では誤りだったとされるものも少なくありませんが、当時の顕微鏡や器具、技術、知識では仕方がないことです。野口の偉業は医学における業績と言うよりも、彼が努力の人であり、研究に身を捧げたところ、そのものなのですね。

11月10日 1923年 忠犬ハチ公が生まれました。

ハチは秋田県大館市で生まれ、2ヵ月後、東京帝国大学農学部で教授を務めていた上野英三郎氏のもとにやってきました。

上野氏が急逝したのが、1925年5月21日ですので、上野家で過ごしたのは、1年3ヶ月というわずかな間でしたが、可愛がられて渋谷駅に主人の送り迎えをしていた充実した日々であったことは間違いありません。

その後、飼い主が変わり日本橋伝馬町の呉服屋や浅草の高橋家へと移されましたが、上野の家に戻りたがり何度も逃走したり、近所の人と諍いしたりすることも多々あったようです。

そのため、代々木富ヶ谷に住んでいた小林菊三郎に引き取られます。この人は上野家に入りししていた植木屋さんで、ハチをたいそう可愛がっていたそうです。上野英三郎氏が亡くなってから2年余りが経った1927年のことです。

その頃から、渋谷駅に朝夕出かけていくようになったようです。当初は、通行人や駅付近で商売をする人から疎まれたり、いたづらをされたりしていましたが、1932年に日本犬保存会の初代会長・斎藤弘吉氏が「いとしや老犬物語」と東京朝日新聞に投稿したことで、ハチは一躍有名犬になり、しばしばエサをもらっていたようです。

1935年（昭和10年）3月8日にハチは亡くなりました。そして生涯、飼い主の上野氏を慕い、帰ってこない主を待ち続けた忠犬として、長く世に語り継がれる事になりました。ハチの銅像は、渋谷駅、出身の大館市にあり、いくつかの映画にもなりました。

ハチの話は、「犬でさえ忠義を尽くすのだ。人間ならば天皇陛下に忠義を尽くすのが当たり前」と、当時の情勢にうってつけの美談として上手に使われたのだらうと思います。

「犬も平気でうそをつく」の著者である、スタンレー・コレン氏は犬の学習能力や記憶について解説しています。それを考えれば、秋田犬の習性をよく理解して上野氏が学習させたことをハチが忘れなかったのは、よく

理解できますし、犬も人間同様、年を取ると呆けるといいますので、子供の頃に覚えたことしか理解できなくなるのも納得するのです。

しかし、現代は犬の放し飼いは許されませんし、ましてや秋田犬のような大型で気性の荒い犬が駅前をウロウロしていたら、それだけで大騒ぎになるでしょうね。

11月11日 1955年世界平和アピール七人委員会が結成されました。

11月11日は1が並ぶということと、+と-が並ぶなど、多くの記念日やイベントのある日です。が、その中から、あまり知られていないと思った出来事を選んでみました。

世界平和アピール七人委員会は、平凡社社長・下中弥三郎が提唱し、政治に中立な立場で世界に平和を訴える手段や影響力のある七人のメンバーによる会です。

結成時のメンバーは、下中弥三郎・植村環・茅誠司・上代たの・平塚らいてう・前田多門・湯川秀樹でした。

1996年から8年間の活動停止時期を経て、2004年から再開し、現在のメンバーは武者小路公秀・土山秀夫・大石芳野・辻井喬・池田香代子・小沼通二・池内了です。

歴代の委員の顔ぶれを見れば、川端康成、朝永振一郎、井上靖、桑原武夫、平山郁夫、永井道雄、井上ひさし、小柴昌俊など、各界で著名な方々です。

世界には、核兵器問題や紛争など平和を脅かす事柄が、たくさんあり、実際に紛争で被害を受けている人も大勢います。そういう問題を提起し、人々に講演会や対話集会を行っているのが、この委員会のメンバーです。それぞれの立場を生かした活動をされています。

1996年までは、核実験に抗議するアピールを多く発表していますが、最近は原子力発電に反対するアピールが発表されています。年に1回の講演会では、メンバーによる講演とパネル討論が行なわれるようですが、宇宙学者、写真家、文筆家などその分野の専門家でなければ知りえないような、貴重な意見を聞くことのできる興味深い講演会のようなようです。

今まで気にしていなかった会ですが、気にしていれば、どんな活動をしているのか目にとまることでしょう。長く生きていても、知らないことが本当にたくさんあります。

ところで初期のメンバーに平塚らいてうがいて、ちょっと驚いたのです。なぜなら、らいてうは「元始、女性は実に太陽であつた」からなる文章でも有名で、もっと古い時代の人のように思っていたからですが、1971年85歳まで生存した人だったのですね。晩年まで市川房枝や野上弥生子、いわさきちひろなどと、婦人解放運動や平和運動に貢献しています。

11月12日 1980年 アメリカの無人惑星探査機「ヴォイジャー1号」が土星に最接近。

1977年9月5日、NASAによって打ち上げられたヴォイジャー1号は1979年には木星に最接近し写真を撮影し、衛星や環、木星系の磁場や放射線環境などの観測を行いました。その後、土星に向かい、土星の環の複雑な構造を明らかにし、土星とタイタンの大気の調査を行いました。

現在は、太陽系の端まで来ており地球から約180億キロ離れたところを飛行していると言われています。太陽系を脱出するのも間近・・・？

このヴォイジャーは姉妹機の2号とともに太陽系外を目指しています。なんとも壮大なロマンですね。秒速17キロ以上のスピードで太陽系の外へと向けて進むヴォイジャー2機は、もしかしたら遭遇するかもしれない地球外生物に向けたメッセージを携えているそうです。

両機には、金メッキが施された直径30センチの銅製のレコードと再生用のカートリッジと針が積まれており、当時アメリカ大統領だったカーター氏とワルトハイム国連事務総長からのメッセージが記録されているのだそうです。

他にも地球上の生物115種を描いた画像やさまざまな音声やモーツァルトなど様々なジャンルの楽曲、古代から現代に及ぶ55種の言語でのあいさつなどが録音されているそうです。日本語の「こんにちは」、「お元気ですか」や尺八の演奏も入っているそうです。

しかし、太陽系に最も近い恒星系のケンタウルス座アルファ星に向かったとしても、到着するまでには約8万年は、かかるそうです。もちろんヴォイジャーたちがどこに向かうのかは、分からないようです。もし、地球外生物からの返信があったとしても、そのとき人類が生存しているかさえ、分からないことです。

ロマンと言えばロマンですが、なにか空恐ろしいような気もしますね。

11月13日 1981年 沖縄本島の与那覇岳で日本において約100年ぶりに新種の鳥が発見され、「ヤンバルクイナ」と命名されました。

ヤンバルとは「沖縄北部の山原」の意味で、そこに住むクイナという名前です。ヤンバルクイナって沖縄の鳥のことだと思ったけど、何で有名になったんですって？そうそう、33年前、新種として記載発表されたのでしたね。

そういえば、この発見より数年後、沖縄旅行に行った時にヤンバルクイナのブローチをもらったことがありました。朱色の太い足と同じく朱色のクチバシが印象的で、なんだかユーモラスな姿をしていました。

この鳥は羽が退化していて飛べず、その代わり足が太く進化しています。天敵がない沖縄島では、飛ぶ必要がなかったのです。でもハブの天敵として持ち込まれたマングースの繁殖と交通事故で一時は700羽にまで減少していましたが、今は1000羽ほど棲息していると言われています。

ヤンバルクイナは、随分前から現地の人にはアガチなどと呼ばれて、存在を知られていました。1973年に野鳥

愛好家が種不明の鳥の屍骸を拾い、羽毛を保管しました。1975年には写真家が種不明の鳥の写真を撮影します。その後、山階鳥類研究所のチームが成鳥、幼鳥各1羽の捕獲に成功。新種「ヤンバルクイナ」として記載発表したのです。

沖縄が返還されたのが1972年ですから、返還後に新種の鳥のことが伝わり、専門家による本格的な調査が行なわれたという事になります。1982年には天然記念物に、1993年には国内希少野生動植物種に指定されています。

国内希少野生動植物種に指定されている沖縄の生物は、他にイリオモテヤマネコ、ノグチゲラ、ヨナクニカラスバト、ヨナグニマルバネクワガタ、ヤンバルテナガコガネ、イシガキニイニイなど多数指定されています。沖縄の豊かな自然、守りたいです。

11月14日 1924年 力道山が生まれました。

力道山（日本名：百田 光浩、朝鮮名：金 信洛）は1963年12月に亡くなっていますので、おっちゃんは力道山のレスリングは知りません。ただ、当時の人々が熱狂したことは知っていますし、戦後のドラマで、街頭テレビのシーンは大抵力道山のレスリングが放映されています。

小学生の時、自主学習の宿題で漢字のしりとりをしていたときのことで、学校、校庭、庭園、園長・・・と言った具合で続けていて、力の付く言葉で支えました。母に「力の付く漢字の言葉、何がある？」と尋ねましたら、「力道山」と答えたのです。「力道山って何？」「有名なプロレスラー」「ふ～～ん・・・・？」と、納得しかねたのですが、とりあえず力道山で次の言葉に続けたのです。

母親でさえ、その名前が出てくるほど有名だったのです。今のように各家庭にTVが普及する以前のことで、TVを意識した見せるための格闘技を迫及したヒーローだったようです。

1960年～70年代は、プロレスの黄金時代だったと思います。金曜日だったかプロレスの番組があって、ジャイアント馬場とかアントニオ猪木などが活躍していました。母親は嫌がっていましたが、この日ばかりは父親も早く帰宅するほどで、コブラツイストやら16文キック、四の字固めなど、次々に繰り出されるワザに興奮し、手に汗握りながら応援していました。

ジャイアント馬場の人気はすごかったですが、実は猪木の方が動きが敏捷で好きだったし、もっと好きだったのは、優しい兄貴のような藤波辰巳でした。ジャンボ鶴田、ラッシュー木村、サンダー杉山、ブッチャーやデストロイヤー、アンドレア・ジャイアン・・・・ぷぷっ、可笑しいほど思い出します。懐かしい。

力道山と言えば、日本と韓国の合同で作られた映画があります（2004年製作 2006年日本公開）。力道山をソル・ギョングが演じ、白刃を素手で触るような、危うくて神経質なのに凶暴な人柄を巧みに表現していました。日本語も上手で違和感がなく、面白い映画でした。このとき初めて力道山という人を知った気がしました。

漢字のしりとりで力道山が出てこなければ、彼に何の興味も持たなかったでしょう。そう思えば、これも何かの縁かもしれません。いや・・・当時は天皇陛下の次に有名な人物とまで言われたそうですから、やっぱり何か興味を持つきっかけは・・・あったかもしれません。

11月15日 きものの日 1966年全日本きもの振興会が制定しました。

きもの日を制定した経緯は、1964年東京オリンピックの時、日本に来た外国人が「日本の民族衣装のきものを着ている人を、ほとんど見かけない」と残念がったことから、七五三の日である11月15日をきもの日と定めたそうです。

七五三は、古来、男児が5歳になると「袴着の祝い」として幼年期から少年になったことを祝って「袴」を着用し、7歳になった女兒は「帯解」や「紐おとし」と言って着物のつけ紐を取り、帯を結んでお祝いしました。きものを着ていた日本人には、人生最初の重要なお祝い事でした。また最近でも、きものでお宮参りや記念写真を撮影することも多く、きもの日に相応しいと考えられました。

成人式や卒業式には、きものを着る人も少なくないようですが、普段はといえば、着付けが大変で、手入れも面倒だし、汚れるのも心配、しかも着慣れていないと苦しいし動き難い・・・と、きもの好きでなければ、きものを着る機会は、なかなかないものです。

ところで、きものを着ると健康によいという話があります。腰紐をきっちり結ぶと骨盤が閉まり、帯を締めることで、背筋が伸びてからだの歪みを正すのに役立ちます。その上、背筋を伸ばせば首の周りや肩甲骨の周囲にある褐色脂肪細胞を刺激し太りにくい体を作るのだとか・・・また、足袋や草履をはくことで、血行がよくなり、足のむくみの解消にもなるとか。

どの程度、健康によいかはさておき、きものは基本的には型が同じです。洋服のように襟の形や袖の形、裾の長さを変えて、おしゃれを楽しむことは出来ません。ですから、きもののおしゃれは、もっぱら色と柄です。

江戸時代には儉約令など出て、派手なきものは禁じられましたから、一口に茶色やねずみ色と言っても、実にさまざまな違った色が生まれ、それぞれに名前がつけました。小紋も意匠を凝らした柄が豊富にあります。日本語は外国語に比べて色を表現する言葉が、たくさんあります。それは恐らく、きもの文化の副産物に違いありません。

余談ですが、11月12日は洋服の日です。明治5年(1872)のこの日、「礼服は洋服を採用す」という太政官布告が出されました。それを記念して全日本洋服協同組合連合会が1972年に制定したものです。

原始時代、腰周りを隠した細長い布が、洋服に、和服にそれぞれ変っていきました。12日と15日、たった3日の違いは、所詮その程度の違いのような気がします。

11月16日 幼稚園記念日

1876年 日本初の官立幼稚園である、東京女子師範学校附属幼稚園（現・お茶の水女子大学附属幼稚園）が開園しました。そのことを記念して幼稚園記念日としています。お茶の水女子大学附属幼稚園と言えば、秋篠宮家の悠仁親王が通っている幼稚園としても知られています。

幼稚園は1872年に公布された学制で小学校の一種「幼稚小学」が規定され、就学前の幼児教育施設として設けられたものです。ドイツの教育者フリードリヒ・フレーベルが「Kindergarten」と名づけた教育施設を日本語訳したものが「幼稚園」です。最初に名乗って開設したのが東京女子師範学校附属幼稚園でした。

普通の幼稚園では、お遊戯、お絵かき、ごっこ遊びなどの社会生活体験を重視し、園庭と花壇を設けて情操を養おうとするのは、フレーベルのコンセプトを引き継いだものです。

フレーベルの考案した玩具に「恩物」があり、今でも多くの幼稚園で採用されています。球、長方形、三角形などの積み木や色板、リング、また折り紙や紙細工、粘土細工などの教材です。非常にシンプルな玩具ですが、子供の想像力や感覚を育てるには効果的なようです。

岡山で最も古い幼稚園舎として知られているのが明治41年（1908）6月30日に竣工した旧旭東幼稚園園舎、通称「八角園舎」です。1979年に門田屋敷本町から、二日市の今の場所に復元しました。2006年には国に重要文化財に指定されています。

岡山県下で、明治末期から大正時代に建設された幼稚園舎は、岡山県工師、江川三郎八による八角園舎がたくさんあります。正八角形の寄棟遊戯室を中心に据え、四方に切妻造りの保育室を付けた複雑な概観をしています。

11月17日 1929年 五島勉が、生まれました。

五島勉の「ノストラダムスの大予言」は、1973年に発行されるや250万部の大ヒットとなり、特に小中学生には、大いなる（？）不安と憂鬱を与えることとなりました。まさに世紀末「世の中の終わり」の思想だったと思います。

今でも予言とか終末論は相変わらず、いろいろあるようですが、おっちゃんの子供の頃には、この「ノストラダムスの大予言」は本当にセンセーショナルで、多くの子供が真剣に悩んだものです……。もう勉強するのはやめようか？とか貯金はやめようか？とか……。今まで、そういう本や情報はなかったし、TVや雑誌が面白がって取り上げて煽動しましたからね。

そうそう小松左京の「日本沈没」とか流行ったのも、そんな頃です。オイルショックや公害など将来に対する漠然とした不安もあったから、余計にこの予言は、ありえないでもない話に思われたのです。

平安時代も「末法思想」があったし、聖書の「ヨハネの黙示録」も終末の予言だから、いつの世も、人間はこの世の終わりを憂っていたのだと思います。始まりがあれば、必ず終わりがある。生まれたものは、必ず死ぬ。妙に悟った冷めた子供時代だったかもしれませぬ。

1990年に湾岸戦争が始まったときは、世界戦争に拡大しないかと、ちょっと心配しましたがけど。

ところで、五島勉は作家でありルポライターで、戦後、進駐軍を相手にしていた街娼の実態や、警察予備隊（自衛隊の前身）に関して、日本の再軍備に警鐘を鳴らすなど社会派のルポ作品を書いています。憲法9条の理念を守ろうとする立場を明らかにした著作もあります。胡散臭い予言の本ばかり書いているわけではないですね

ノストラダムスは16世紀前半に生きたフランスの医師で占星術師で詩人でした。考えてみれば、まだヨーロッパでは日本の存在すらよく分かっていない頃に書かれた「百詩篇」が、300年以上経って、はるか日本で話題になるなんて、ノストラダムスも予言できなかったことでしょうね。

11月18日 1901年八幡製鐵所が操業を開始しました。

現在は新日鉄住金 八幡製鐵所（2012年10月～）になっていますが、明治時代「富国強兵」「殖産興業」のスローガンのもとに官営の製鐵所として建設されました。軽工業の象徴は富岡製糸場、重工業の象徴は八幡製鐵所として、学校で習いました。

歴史でよく知られている八幡製鐵所ですが、実は2番目に建てられたものであり、最初に建てられた官営の釜石鉱山製鐵所は操業がうまく行かず、1880年から2年で民間に払い下げられました。日清戦争後、鉄道の建設や軍備増強のために鉄鋼の需要が高まっており、政府が製鐵所を渴望していたことが想像できます。

1897年、ドイツから機械と技術者を招いて、製鐵所建設は始められました。しかし、釜石鉱山製鐵の失敗の原因を追究しようとしないうちに、強く反対したのが、釜石鉱山田中製鐵所の顧問だった東京帝国大学工学部元教授・野呂景義氏でした。

野呂景義の提案と原因休憩の結果、高炉の形状と操業方法の改善で、大量の銑鉄の生産に成功しました。1927年には銑鉄の生産を年100万トンとするまでになりました。1930年には鉄道レールの完全国産化を実現しました。

鉄道のレールは気温の変化で膨張、収縮するため不純物があると割れやすく生産が難しいものでした。新規格を定めたり、多くの技術改良をしたりして破損の少ない製品を作り上げることに成功したのです。

製鐵の現場では、技術の向上や細かい生産管理はもちろんですが、人材育成を重視しているように感じます。野呂景義のやり方を継承し、原因を突き止め、改良品を作ることを貫く伝統、「野呂イズム」のようなものがあるようです。

山崎豊子の小説「大地の子」でも製鐵所で苦勞して高炉建設をする場面が描かれています。製鐵は国の力をつけることに直結しているんですね。ドイツでよくても、日本ではだめ。その土地や人々にあったやり方を追求しなくてはいけないようです。

日本の技術やノウハウを輸出する試みが、たくさんありますが、これを成功させる秘訣は、粘り強い改良と信頼からなる人々の絆でしょうね。

11月19日 1863年エイブラハム・リンカーンによるゲティスバーグ演説が行われました。

南北戦争の激戦地となったペンシルベニア州ゲティスバーグにある国立戦没者墓地の奉獻式において、アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンが、あの有名な言葉を含む演説を行ないました。

献納式典では、基調講演をエドワード・エヴァレットというハーバード大学学長、マサチューセッツ州知事、アメリカ合衆国国務長官などを歴任した人が行い、リンカーンには適当に短い挨拶をとの要請があったそうです。

リンカーンの演説、というか挨拶は主催者の要請どおり、大変短いもので、臨席していたカメラマンは始まったことに気づかないうち終了したと言われています。しかも、リンカーンは祈るような小さな声だったので、ほとんどの人は注目しなかったとも言われています。

たまたま書き留めていた記者のメモにより、これが広く知られるようになりました。

1863年の時点では、まだ南北戦争中でしたので、リンカーンは、「国民 (Citizen)」という言葉でなく、「人民 (People)」という言葉を使っています。二つに分かれて戦争している状況を苦慮し、統一を願っていたからに違いありません。エドワード・エヴァレットは、この演説に感動し、自分の2時間の講演が、リンカーンの2分の演説には及ばないと言ったそうです。

人民の人民による人民のための政治 (the government of the people, by the people, and for the people) は、非常に有名な言葉になりましたが、リンカーンのオリジナルではなかったようです。

今知られている一番古いものはジョン・ウィクリフ (14世紀) が聖書を英訳した著作の序言に用いています。その言葉を引用したウェブスター (18世紀の政治家)、さらにそれを引用したパーカー (19世紀の牧師、雄弁家、黒人解放運動家) などがいます。

人民の人民による・・・これは、日本国憲法の前文の一部にも使われています。

「国政は」、「国民の厳粛な信託による」ものであつて、その權威は「国民に由来し」、その権力は「国民の代表者がこれを行使し」、その福利は「国民がこれを享受する。」

これは、マッカーサーがリンカーンの名言を織り込んで、GHQによる憲法草案前文を作製し、その和訳が採用されたからです。マッカーサーが、リンカーンを尊敬していたからかもしれませんし、思想統制されていた日本国民に対する解放の意味合いがあったかもしれません。太平洋戦争で亡くなった多くの人々に捧げる鎮魂の意味合いもあったかもしれません。

自由や平和に、ぼけている私たちにとって、この憲法の前文の真意 (マッカーサーの願い?) を理解するのは、難しいのかもしれないと思えました。

11月20日 1889年小野竹喬が生まれました。

小野竹喬は、笠岡市西本町に生まれ、名前を英吉と言いました。14才の頃、長兄の小野竹桃の勧めにより京都に出て、日本画家・竹内栖鳳に師事し、1906年栖鳳より「竹橋」の号を授かりました。後に竹喬に改称しています。

京都市立絵画専門学校の同期生には、村上華岳、土田麦僊がおり、ともに1918年国画創作協会を結成し、“西洋美術と東洋美術の融合と、新しい日本画の創造”を目指しました。

他に、伝統的な文展の審査のありかたに不満・疑問を持った京都在住の日本画家などが賛同して会に入っています。

戦後、京都市美術専門学校で教授として教鞭を執っています。50代で亡くなった華岳や麦僊に比べ、竹喬は75年という長い間画家として日本の自然の美しさを描き続け、1976年に文化勲章を受章しています。

日本画壇の重鎮として活躍し、1979年に89歳で亡くなっています。

笠岡市は竹喬の業績をたたえ、その功績を後世に伝えるために1982年に美術館を建てました。

竹喬の絵は、どれも優しい色合いで、今時言い方をすれば「超かわいい」のです。

もちろん、75年のうちには作風は何回か変わっているのですが、一貫して自然への深い愛情が感じられ、岡山という温暖な気候に育まれた慈しみに溢れた人柄が見て取れるようです。

一見、単純なのに、実は微妙な変化が描き込まれ、洗練された品のよさと親しみやすさがあります。どうしてか、見慣れた感じがするのは、やはり郷土の画家だからでしょうか？

11月21日 インターネット記念日

1969年アメリカのARPA ネットの実験が始まりました。これが後のインターネットの元になっているので、この日はインターネット記念日とされています。

ARPA ネットはアメリカとソ連の冷戦の産物です。1957年ソ連が人工衛星スプートニクの打ち上げに成功すると、アメリカはソ連と戦争になった場合、宇宙から攻撃を受ける危険にさらされることになります。

そこで宇宙開発に大きな予算を割くと共に、宇宙戦争になった場合の防衛策を練るための研究所としてARPA（高等研究計画局）を組織したのです。ARPAによる通信網で、軍事情報を分散して管理し衛星軌道からの攻撃を回避することを考えました。

ARPAを見て、アルバイト情報誌？なんて思ってしまう、私は……

インターネットが普及する前はパソコン通信と言っていました。パソコン通信は1980年代後半から増え始め、1990年代中ごろにピークを迎えています。

会員制でホストコンピュータでつながり、メールや掲示板、情報検索やショッピングもできました。その後、インターネットが席卷し、パソコン通信の言葉も死語となっています。

パソコン通信といえば1989年後藤久美子主演の「空と海をこえて」のテレビドラマは、今でも忘れられないほど、衝撃的なものでした。当時、パソコン通信に興味を持っていたせいもありますが、世界中がパソコンでつながることに驚き、これから、どんな時代が来るのか想像さえできませんでした。

20年前には、パソコンそのものさえ、どんな利用法があるのか理解できなかったのに、今では、生活に不可欠なものになっています。携帯電話の普及もあって、人間関係まで昔とは違ってきています。

インターネットのつながりが密になればなるほど人と人のつながりが希薄になる・・・なんて事のないように。

11月22日 1989年 岡山県美星町で日本初の「光害防止条例」が公布・施行されました。

今は井原市になっている美星町ですが、美しい星の町なんて、とてもロマンチック！

美星町の名前は、1954年6月1日 小田郡美山村・塚村・宇戸村、川上郡日里村の4村が合併し町制を施行したときに、町内を流れる美山川と星田川の一字ずつから美星町と名付けられたそうです。

こういう場合、大きい町の名前に吸収されることが多い気がしますが、名づけ方もロマンチック！

岡山県は晴天の日も多く天体観測に相応しい地域で、また国立天文台岡山天体物理観測所が美星町の近く、浅口市鴨方町にあります。そこで、美星の名前にも、ちなんだ『星の郷づくり』に取り組み、天文台を建設しました。

多くの人々がそれぞれに感動をもって遥かなる星空に親しむよう、宇宙探索の機会と交流の場を提供するために、「光害防止条例」を制定しました。（と前文に書かれています）

光害とは、過剰な夜間照明により、生態系を混乱させたり天体観測に支障がでたり、エネルギーの浪費になる等のことです。確かに市街地では、星が見えません。その上、ビルに囲まれて空も狭いです。生態系を混乱させると言うのは、夜行性の蛾や鳥類、短日植物や紅葉などに影響があるようです。

美星町に倣って2002年より岡山県でも、サーチライト規制条例を設けています。他に佐賀県、熊本県、大分県、浜松市などに同様の規制条例があるそうです。

降って来そうなほどの満天の星空は、都会では滅多に見られませんが、たまには、ロマンチックな気分につ

て星空を堪能してみたいものですね。12月にはふたご座の流星群が観測できます。13日ぐらいがピークでしょうか。

11月23日 Jリーグの日

1992年Jリーグ初の公式戦の決勝戦が行われたことを記念して1993年にJリーグの日を制定しました。Jリーグは1部制で10クラブの参加で開催され、その後18クラブに増え1999年より2部制になりました。日本には40のプロサッカーチームがあり、J1に18クラブ、J2に22クラブが所属しています。

もう20年も前の話になるのか・・・という感じですが、広島友人が「Jリーグが広島にもできる」と自慢げに言っていたのを思い出します。プロ野球のチームもあるのに、プロサッカーまでできるのか！やっぱり、ちょっと大きい町はちがうのお〜と、ひがんでみたものです。

その後、岡山にファジアーノ岡山ができてJリーグに参加しました。ちょっと心配したのは、観客動員数があるのかということでしたが、案外、盛り上がっているようです。今年には、最上位・J1を経験していないクラブで初の「J加盟初年度からの通算有料入場者50万人」を達成しました。

カンコースタジアムがホームですが、J1のチームとの対戦の時には、場外に応援の音が響き大変な盛り上がりになります。選手たちの練習場が確保されず、劣悪な環境であるにもかかわらず、着々と実績を上げていることには、本当に感心します。

ファジアーノの前身は、1966年に創部した川崎製鉄水島サッカー部のOBと市民チームの「リバー・フリー・キッカーズ」と言いました。

チーム名のファジアーノは、おとぎ話「桃太郎」に登場する動物で、岡山県の鳥であるイタリア語でキジを意味するファジャーノに由来します。チームカラーはワインレッド。チームマスコットはキジをイメージした「ファジ丸」。チームキャッチフレーズは子供たちに夢を！

ファジアーノの選手たちが、努めて子供たちとふれあっている姿は、実に微笑ましいものです。

日本のサッカーが世界で活躍するのを見れば感動的ですし、夢があります。若い人たちの活躍の場が広がるように、岡山県のサッカーチームを応援したいと思います。

11月24日 1859年チャールズ・ダーウィンが『種の起源』を出版しました。

「種の起源」には、生物は環境に適應する性質や、生存者が淘汰されて次世代の種を残してきたと論じています。

この本は、専門家以外の人にも分かりやすく書かれていたので、多くの人の関心を集めました。神が人を創ったと信じる人々には、激しく非難されたそうです。

今でもアメリカ合衆国では進化論を否定する団体があったり、ミッションスクールでは、進化論は教えなかったりするのだそうです。ですから、アメリカ人で進化論を信じている人は40%弱と言われます。日本では80%程度が信じているそうです。

熱心に教会に通う人は、進化論を信じない人が圧倒的に多く、信じる派、分らない派を大きくリードしていますし、高卒以下の学歴の人では、分らない派が半数以上をしめています。若い人より、年配の方が、信じていない派が多いようです。

ではアメリカでは60%の人が進化論を信じていないのかといえば、そういう訳でもないのですが、36%の人が信じないとしています。

しかし・・・ 「進化論」って信じるものなのでしょうか？

人間の祖先はサルか？と言われれば、「それは・・・？」と感じますが、生物が環境に適したDNAだけを残してきたのだと言われれば、非常に納得します。信じるか信じないかではなく、理解できるかできないかの問題ではないかと思えます。

アメリカの統計が「信じる」「信じない」でアンケートをとっているのが、宗教的で興味深い気がします。どんなに理不尽なことでも信じて誓うのが教祖に対する契約です。ダーウィンだって教祖になるつもりは、なかったでしょうね。

11月25日 1970年三島事件が起こりました。

三島事件とは、作家三島由紀夫が、憲法改正のため自衛隊員に向かって決起を呼びかけた後、割腹自殺した事件です。

三島は自衛隊市ヶ谷駐屯地で総監を人質として総監室に立てこもり、自衛官800名を一堂に集めて演説をすることを要求しました。憲法を改正して自衛隊を国の正式な軍隊とし、国防を強化することを主張するためでした。同行していた「楯の会」のメンバーと、綿密な打ち合わせをして及んだ行為で、死を覚悟していました。

三島は「日本は経済的繁栄にうつつを抜かして、ついには精神的にカラッポに陥って、政治はただ謀略・欺心だけ」「日本を守るとは、天皇を中心とする歴史と文化の伝統を守ることである」「自衛隊は違憲といわれていることに怒るべきだ」「俺と一緒に立ち上がるものはいないのか」と訴えています。

この年の6月には70年安保闘争の大規模なデモがあり、学生運動や左翼の団体が激しく運動していた頃です。左翼の中には革マル派や連合赤軍など過激な殺人集団とも言えるグループもあって、安保そのものの支持も減っていきつつありました。

東京オリンピック、大阪万国博覧会などで国中が盛り上がる一方で、よど号ハイジャック事件や浅間山荘事件などの過激な事件も起こっています。良くも悪くも勢いのあった時代だった気がします。

三島が訴えたかったことは、正しく人々に伝わったとは思えません。ただただ過激でセンセーショナルなだけでした。国を守ることは、どうか・・・戦争をするという意味ではなく、文化や歴史を正しく伝え、自分の国を誇れるためにはどうすべきか、考えてみたいと思います。選挙も近いし・・・先が見えないけど。

11月26日 1935年 日本ペンクラブが発足しました。

この日をペンクラブの日としたのは1965年です。

1935年の日本は、満州事変をきっかけに国際連盟を脱退し、国際的に孤立しつつありました。それを憂うリベラルな文学者や外交官が、ロンドンの国際ペンから設立の要請を受けて、当時第一線で活躍していた作家、詩人、外国文学者、評論家の有志によって日本ペンクラブが創立されました。初代会長は島崎藤村が務めました。

その後の日中戦争、太平洋戦争下で言論弾圧が厳しくなった時にも、日本ペンクラブはロンドンのセンターと連絡をとって、唯一世界への窓口であることを守り抜きました。

日本ペンクラブは平和を希求し、表現の自由に対するあらゆる形の弾圧に反対するとの精神に賛同するP（詩人、俳人、劇作家）、E（エッセイスト、エディター）、N（作家）が集まり、独立自尊をモットーに活動を続けています。世界平和アピール七人委員会のように、政治活動とは一線を画しているようですが、反戦と政治活動は紙一重のようで、それが原因で論争が起こったり、脱会者が相次いでいます。

会員の中には、このたび東京都知事に出馬を表明した猪瀬直樹氏、田中康夫氏、俳優の中村敦夫氏、浜畑賢吉氏、愛川欽也氏などの名前も見えます。あれ？若い人には分からないか・・・

11月27日 ノーベル賞制定記念日

1901年、ノーベル賞の第1回授賞式が行われたのを記念して制定された日です。ご存知のとおり、ダイナマイトを発明したスウェーデンの化学者ノーベルが遺言で、ダイナマイトで得た富を人類に貢献した人に与えたいと書いたことからノーベル賞が創設されました。

ノーベルの遺産を元にした基金168万ポンドで、毎年その利子が、物理学・化学・生理学医学・文学・平和事業の5分野に貢献した人に贈られることになりました。1969年からは経済学賞が追加されています。

ノーベルの命日12月10日に、平和賞はオスロで、その他の賞はストックホルムで授賞式が行われます。今年も日本人の受賞者があり、大変な話題になりました。医学生理学賞を受賞した神戸大学の山中伸弥教授です。これで日本人の受賞者は19人になりました。

ノーベル賞受賞者のリストを見ながら、「分かる人がいない・・・」

物理学賞や化学賞は、専門的で分からないのですね。マリー・キュリーとアインシュタインぐらいしか分からないし、生物医学賞もパブロフとコッホぐらいしか分からないです。

平和賞と文学賞は、もう少し分かります。マザー・テレサ、セオドア・ルーズベルト、アウンサンソーチー、メーテルリンク・・・デュナン、キング牧師、ハルなど、詳しく調べてみたい人物もたくさんいます。

非核三原則を宣言して佐藤栄作は平和賞を受賞しましたが、本人は、非核政策はナンセンスだと発言したとも言われています。他にもノーベル平和賞については、論議を呼ぶ受賞者も少なくないようですが、本当に平和な世の中ならば、このような賞いらないのでしょうかけれど・・・。

11月28日 1883年東京・麴町に日本初の洋式社交クラブ鹿鳴館が開館しました。

この日には、2000人の招待客を呼び落成の祝宴が開かれました。

鹿鳴館（ろくめいかん）は外国からの賓客や外交官を接待するために明治政府によって建てられた社交場です。江戸末期日米修好通商条約や、イギリス・オランダ・ロシア、フランスと相次ぎ締結した条約（安政五ヶ国条約）に治外法権の問題が含まれており、その撤廃のために、日本が文明国であることを証明するために、極端な欧化政策がすすめられました。

いわゆる鹿鳴館時代と言うのは1883年11月から1887年を言います。当時は政府高官の貴婦人でも、西洋式のマナーやエチケットを見につけていた人は、ほとんどいなかったのので、食事の作法や洋服の着こなし、舞踊の仕方など西洋人からみれば、かなり滑稽なものであったようです。

ちゃんとしたダンスを踊れる婦人も少なかったのので、ダンスの訓練を受けた芸子や学生までもが動員されていたそうです。その後、この鹿鳴館外交に批判が集中し、推進者であった井上馨が失脚したことで、鹿鳴館時代が終わりました。

「鹿鳴館の華」といわれたのが、大山捨松（山川映子）です。会津藩の出身で、幼くしてアメリカ留学をしました。その後、薩摩出身の軍人大山巖の夫人になっています。アメリカ仕込みのダンスのステップや日本人には珍しい長身と洋服の着こなしなど、注目の的であったようです。

看護学校設立のためにバザーを開いたり、自ら日本赤十字社で戦傷者の看護もこなし、政府高官夫人たちを動員して包帯を作ったりしました。現代のボランティアのさきがけであったようです。大山捨松は、来年の大河ドラマ「八重の桜」でも登場するようです。楽しみですね。

11月29日 1875年 京都市に同志社英学校（同志社大学の前身）が開学しました。

NHKの回し者ではありませんが、昨日に続いて来年の大河ドラマ「八重の桜」にちなんだ話題になりました。同志社英学校は新島襄によって建学されましたが、彼はヒロイン八重の夫になる人です。ちなみに、八重を演じるのは綾瀬はるかさん、新島襄を演じるのは、ジョーこと岡山出身のオダギリジョーさんです。

同志社英学校は 1920 年に同志社大学になりました。

同志社英学校の設定を支援した人々には、勝海舟、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文、井上馨、大隈重信、渋沢栄一・・・など、そうそうたる明治の著名人が名を連ねています。新島襄の人脈の広さと人柄が偲ばれますね。そして新島襄は、福沢諭吉らとともに、明治六大教育家の 1 人に数えられています。

新島襄は 21 歳の時密航によりアメリカのボストンに行きフィリップス・アカデミーに入学しました。その後、正式な日本の留学生に認められます。1872 年にはアメリカに訪問していた岩倉使節団と会い、使節団の通訳としてヨーロッパに同行しています。

襄、妻の八重のことを「顔は決して美しくありませんが、行き方がハンサムなのです」と言っています。「八重の桜」もヒロインの潔い明治の女性としての生き様を描いていくのでしょう。

ハンサムな生き方とはどんな生き方なのか、大変興味があります。今の女性は、みんなハンサムな生き方をされているのかもしれませんが・・・。

11 月 30 日 1892 年福澤諭吉の後援で北里柴三郎が大日本私立衛生会伝染病研究所（現 東京大学医科学研究所）を設立しました。

しりとりのように、連日関連のある話が続いていますが、明治六大教育家の 1 人である福沢諭吉とノーベル賞の候補者になった北里柴三郎がダブルで登場です。また、野口英世は北里の研究所の研究員でしたから、師弟ともいえるでしょう。北里が 23 歳年長です。

北里柴三郎は、「日本の細菌学の父」とも言われコレラ、破傷風、ジフテリア、ペストなど多くの病原菌の究明と血清やワクチンの開発に尽力しました。

ノーベル賞の第一回医学生理学賞を受賞したベーリングとは共同研究をしており、ベーリングは「北里がいなければ、この受賞はなかつたろう」と述べています。

前述の大日本私立衛生会伝染病研究所は 1914 年に帝国大学に組み込まれる事になり、それに反対した北里は、私財で北里研究所を創立し、生涯所長を務めました。

また、1921 年にはテルモの前身である赤線検温器株式会社の創立賛同者の筆頭に名前を記しています。

当時、日本で使われていた体温計の多くはドイツからの輸入品でした。けれども、第一次世界大戦がはじまり、輸入品が入ってこなくなったことから、医師の間から「なんとか国産の良質な体温計がつかれないものか」という切実な声わき起こっていました。

体温計の製造が「国民医療」に不可欠であり、国民の健康に寄与するという信念を持っていた北里は、この会社の設立に積極的に賛同したのです。

ちなみに、体温計をドイツ語で「テルモメーター」と呼ぶことから、社名をテルモに改称しています。

北里柴三郎は、「医者使命は病気を予防することにある」と確信し、予防医学を生涯の仕事と決心しました。そのことを「医道論」を書いています。

志が高く頑固な研究者でしたが、人情に厚く多くの弟子から慕われたと言われています。「ドンネル先生（ドイツ語で雷親父）」と呼ばれていたそうです。そんな風貌が写真からも分かりますね。